

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 4月 27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670102456
法人名	株式会社ツクイ
事業所名	ツクイ富山萩原グループホーム
所在地	富山市萩原179-1
自己評価作成日	平成27年3月25日
評価結果市町村受理日	平成27年5月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成27年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年度も昨年度に引続き地域連携の強化を行ってきた。 昨年度からの活動で、地域にも認識され、声をかけてもらう機会も増えている。運営推進会議への参加もして頂けるようになった。今後は事業所として地域に貢献できる取り組みを行いたい。 職員の認知症ケアにも力を入れている。今年度、認知症実践者研修と認知症キャラバンメイトを受講している。今後、認知症の理解について地域に発信したいと考えている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域の回覧板で事業所の情報を伝えたり、認知症サポーターやキャラバンメイトを通して地域へ発信し、地域貢献できるよう取り組んでいる。職員は介護の質の変化に対応するため積極的に外部研修に参加し、ミーティングで研修内容を報告し全員で共有化を図り、介護サービスの質の向上に取り組んでいる。また、安心して最後までその人らしく暮らせるように、本人や家族の思いに沿って協力医と連携し看取りに対応している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

ツクイ富山萩原グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 「ゆったり、たのしく、みんなであんしん」 を各フロアに掲示。 研修やミーティングの際に理念に基づく行動について話し合う。	「家庭的であたたかな雰囲気の中で、その人らしい生活を送れるよう」、毎月研修時に理念を唱和し共有して、利用者の立場に立った継続的なケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回、ホームの情報を回覧板と一緒にまわしてもらい、ホームの事を知ってもらうようにしている。 ご近所の方とは散歩中に立ち話をしたり野菜や花を頂けるような関わりがある。 行事への参加や、総会への出席をとおして意見交換を行っている。	地域の行事（夏祭り、子供みこし、ふるさと祭り等）に参加し、ふるさと祭りでは利用者の作品を展示してもらっている。また、ボランティアの訪問を受けたり、地域の回覧板で事業所情報を伝え地域との交流を図っている。	地域行事への参加やボランティアの訪問等で地域との交流を図っているが、今後は保育園や学校行事などにも参加したり、地域の子供達とふれあう機会を増やす取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回の開催を通して、ホームの取り組みや運営状況について説明をしている。 会議で出た意見については、真摯に受け止め改善に努めている。	自治会代表、地域包括支援センター、家族の参加を得て、隔月の第4土曜日に開催し、事業所からの報告や意見交換を行っている。 事業所の情報を地域へ回覧してはとの意見があり、その意見を取り込み地域との連携を深めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、訪問や電話などで運営上の相談を行っている。 困難事例や相談等は、まず地域包括支援センターに相談をし、助言を頂いている。	地域包括支援センターから認知症サポーターやキャラバンメイトの研修等の案内を受けたり、事業所から地域への関わりについて相談して、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 身体拘束廃止委員会を設置し、研修を行っている。	毎月の研修会で、マニュアルの抜粋や事例研究で検討し、身体拘束の定義を理解して、言葉の拘束を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中施錠しないので、外出の気配があればさりげなく寄り添い外出するよう対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、研修を通して学んでいる。 虐待は行われていないし、今後も虐待が行われないように、職員の育成と働く環境の整備を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の勉強会や研修に参加をしている職員が、社内で伝達研修を行う事によって理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定の時には十分な説明を行い、同意を得ている。 質問や疑問にも個別に答えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置している。 直接職員に言えない事も、介護相談員等外部の人に言える様に、介護相談員の訪問日をお知らせしている。 本社の窓口や、富山市、国保連の窓口もお知らせしている。	家族訪問時の話し合いの場で本人や家族の意見を聞いている。また、家族には毎月「ふれあい便り」で利用者の近況を伝え、アンケート等からも意見や要望を把握し運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット毎のカンファレンスと全体ミーティング・研修を行い、情報の共有をしている。 また、他グループホームへの見学等を行い、目線を変えて考えられる機会を設けている。	毎月のミーティングやカンファレンスで職員の意見、提案を聞くようにしている。法人内グループホームの見学や外部研修での気づきや提案を話し合い、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与には経験加算・能力加算があり、年に1回の見直しが行われている。 資格取得支援制度や研修参加補助のシステムがあり、これらを活用してスキルアップする機会を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には必ず研修を行っている。 全国で介護サービス事業を行っている会社の特性を活かして、他事業所との合同研修や他所長を招いての講義も行っており、会社のマニュアルを活用しての勉強会の開催もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会の研修や交流研修に参加をしたり、外部講師を招くなどし、情報交換の機会を設けている。 地域包括支援センターの勉強会へも参加をし、ネットワーク作りを行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には、本人との事前面談をおこなっている。 事前面談だけでなく信頼につながるわけではないが、初対面の緊張を和らげるように工夫し、ニーズの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み、事前面談を通して家族の不安を把握し、家族の意向を確認しながらサービスの開始へとつなげている。 サービスの内容や料金の相談についても、家族が納得できるまで説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本人と家族の現在の状況（利用サービスや身体状況・病気について・家族の介護力等）を確認している。 ホームの受け入れ体制等も説明し、必要に応じて他のサービスを紹介する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、入居者様は人生の先輩であるという事を意識し、お互いに困っている事を助け合い、豊かな生活を作っていきたいという距離感で接している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時などに近況報告を行ったり、過去にどのような生活をしていたか等の情報収集を行い、本人との関係性の理解に努め、それぞれの事情に合わせた関わりを続けられるようにしている。 体調の変化等の際には、その都度連絡をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	友人や知人の面会の制限はしていない。 （家族からの要望がない限り） 面会の際にはお茶を飲みながらゆっくりと昔ばなしができるようにしている。 外出も、馴染みの場所への希望があれば同行している。	馴染みの美容院、和菓子屋、化粧品屋さんへ出掛けたり、事業所へ友人・知人が訪ねたりする時はさりげなくサポートして、馴染みの関係が途切れないうよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中には一人が好きという入居者様もいらっしゃるのですが、お互いがちょうど良い距離感で生活できる様に、職員が関わっている。 時には喧嘩に発展する事もあるが、お互いに気づかい、助け合っている姿も見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ転居されたケースでは、転居後の訪問を行ったり、転居先からの電話による相談を受けるなどし、本人の支援についてのアドバイスをを行った。 また、併設デイサービスへの継続利用となった利用者もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の何気ない会話の中に希望が込められている事があるので、入居者様の言葉を職員が共有し、プランに盛り込む様考慮する。 意志の伝達が困難でも声がけを続け、表情の変化から察する事もできる。ご家族の気持ちも確認しながら検討している。	体に触れたり話しかけてコミュニケーションを取りながら、表情や反応を見て思いを把握するようにしている。管理者は、職員が認知症を理解した上で利用者と接する事ができるように指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から話を聴いている。 昔の事でわからない事も多いが、少しでも理解できるように努めている。 また、以前利用していたサービス事業所と連携をとり、ご本人の嗜好を尋ねる事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に変化に気づけるようにしている。 ささいな言動の変化から、生活に大きく影響が出る事があるので、まずは情報の共有を行い、家族への報告（内容により主治医への報告）を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行っている。本人の意向とご家族の意向を確認しながら、計画書に盛り込める様に意見を出し合っている。 介護計画書の交付の際にも、モニタリングと照らし併せて説明を行い、ご家族の希望があれば変更している。	家族からの要望や職員間の話し合いで出された意見は、モニタリング・計画に取り入れている。できるだけ詳細な計画を立てて職員や家族にもわかりやすくなるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は計画書に基づき個別に行っている。 生活記録・医療連携・連絡帳を活用し、情報をまとめて、カンファレンスやモニタリングで話し合い、計画書と照らし合わせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況の変化に応じて必要な福祉用具の準備や、職員の配置の変更、業務内容の見直しを行っている。 身体状況やご家族の経済的理由等によっては、活用できる公的支援や、他のサービスについての説明も行っている。 併設のデイサービスにてイベントがある時には職員が同行し参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを行ったり、地域包括支援センターや地区の自治会などに、入居者様が活躍できる場の相談を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的な健康管理を行う主治医の変更も自由で、入居の際にはご本人とご家族の希望を確認している。 ホームの主治医とは24時間体制で連絡がとれ、月に2回の往診を受けている。 必要に応じて受診や検査を受け、専門医の紹介もしてもらっている。	往診や緊急・夜間対応で協力医の診察が受けられるので本人・家族の安心が得られている。事業所の看護師が家族や医師と連絡を取り、検査や受診、また診察がスムーズに受けられるよう調整している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師とは24時間体制で連絡がとれるようにしている。 入居者様の変化に気づいたら、まず看護師に相談を行い、看護師から主治医へ報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした際には病院のソーシャルワーカー等を通して情報の提供を行っている。 面会時には情報の共有を行い、病院においても退院後においても、利用者が安心して生活できる様に配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化の指針を説明している。 必要時には主治医とご家族、ホーム看護師を交えて話し合いの場を設けている。 主治医の診断により、ご本人やご家族と終末期についての話し合いの場を設けながら、看取りケアに取り組んでいる。	看取り期では協力医や関係者間で話し合いを行い、本人・家族の望む時間が過ごせるように支援している。看取り計画書を作成しその時の状態変化に合わせ見直しを繰り返しながらケアしていくようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故発生時・緊急時の対応についての研修を行っている。 看護師の指導により、職員同志で実践的な研修の場も設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	飲料水や食料の備蓄を行っている。 定期的に賞味期限の点検や補充を行い災害時に備えている。 避難訓練は併設のデイサービスと共同で行い、年に1回は消防署員から直接指導を受けている。	消防署員の協力を得て併設デイサービスと合同で避難訓練を行っている。夜間想定訓練や消火器の使い方など指導を受けている。 運営推進会議での報告は行っているが、地域との防災情報の交換や訓練の協力体制は整っていない。	日ごろから地域住民や自治会等と連携を図り、地域の災害に関する情報収集をしたり、事業所の災害対策や支援に理解を求め、協力関係を築く取り組みが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの保護については身体拘束廃止や虐待防止との関わりも大きく、重要な事。 毎月の研修で必ず考える時間を設け、常に意識できる様に取り組んでいる。 職員同志がお互いに、注意をし合える関係づくりを目指している。	職員個々の言葉遣いに注意をしたり、マニュアルをもとに研修を通じて人格の尊重とプライバシーの確保についての意識づけを徹底している。看取り同意書内にも「人格の尊重」をうたい、最後までその人らしく過ごせる支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人中心の優しい声がけや表情で、リラックスした場を作っている。 おやつや飲み物、衣類などでも2種類のうちどちらかを選ぶような工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の状態によって職員の勤務時間を変更したり、業務内容を見直すなどしている。 共同生活の場で、集団で楽しめる事と個別にした方が良い事を分けて考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性が多く、衣類や化粧品を一緒に買いに行く事がある。 おしゃれにも一人一人の好みがあり、今まで続けていた事が継続できるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事をできる範囲で職員と共同して行っている。 食に関する動作の中で、何か一つでも出来る事があれば関わってもらうように配慮している。	業者からの食材調達であるが、時には買物に出かけ、誕生会食や季節に合ったメニューで楽しみを作っている。全員揃って外食に行く事は難しいので、少人数で出かけている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録している。 個別に食事形態やメニューの工夫をしている。 箸がすすまない方には、安易に介助をするのではなく、声をかけたり、食事に集中できる環境を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや歯磨きを促している。 介助が必要な方には職員が介助を行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間を記録している。 必要に応じて声がけを行い、介助方法も個別に工夫している。	トイレで排泄できるように、チェック表をもとに一人ひとりに合った声かけ誘導をしている。自立が困難な利用者にはオムツ交換や清拭等の回数を増やし清潔保持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服を開始する前に、主治医や看護師と連携をとり、食物や水分、運動面などから、総合的に解決策を考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	特に曜日や時間帯を決めているものではない。ただし、職員が複数名の時間帯以外には、その時々状況により判断をしている。 福祉用具の導入については、リスクが高かった為導入していない。	本人の希望を聞き入浴してもらっている。浴槽内の出入りが不安な時は職員二人で安全な入浴介助を行っている。入浴ができない時は手足浴、ドライシャンプー、清拭を行い、気持ち良さを感じてもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には、ご本人の使い慣れた寝具や家具を持ち込める様にしている。 共同生活に不慣れな場合には、無理にフロアに集まってもらう様な事もなく、淋しさを感じない程度に、自由に過ごせるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての情報をファイリングして、全員で共有している。 往診の際に薬剤師も同行し、薬の変更等があれば、その場で注意事項を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さまによって、役割に対する気持ちが違うので、一人一人にあった役割の分担を考えている。 毎日の生活の中で、喜びを感じてもらえる時間をつくる努力をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望とご家族の了解が確認できれば行ける場所はたくさんある。 以前住んでいた家に遊びに行き、近所の人の家でお茶を飲んだ事もあった。 また、自治会のイベントでは、地域の方が車椅子用の席を設けて下さるなど、とても理解をして頂いている。	行事担当職員が利用者の希望を聞いて年間行事を計画している。花見やドライブにおにぎり持参で出かけたり、おやつや化粧品を買いに行きたいと希望があれば職員と一緒に出かけている。日常的に散歩や公民館まで出向くなど近隣の散策を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族の希望があれば自宅で管理をしてもらっている。 金額に関しては少な目をお願いしているが、紛失等のリスクもご家族に説明している。買い物の際には、レジでの支払いをお願いする事もある。お店の人との会話もでき、社会との関わりを感じて頂きたいと思っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を使用してもらっている。 また、電話番号がわからなかったり、電話が使えない場合には職員がつなげ、ご本人に出でいただいている。 定期的に家族と手紙のやり取りをしている方もいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの窓は大きく、開放的である。季節が良い時には全開にし、目の前の花壇の花を見ながらお茶を飲める。時間帯によっては駐車場の車の出入りが多いので、騒音や車の匂いには注意をしている。 フロアの飾りは季節により変えている。オープンキッチンから会話もできるので、昔の食べ物や調理方法を教えてもらいながら、コミュニケーションがとれる。	昨年度は開設後初めて大掛かりな修繕を行い住環境を整えている。空気清浄器や加湿器を設置し温湿度に注意しながら管理している。昼食前にリビングに集まって体操したり、食事準備をテーブルで行うなど共用空間で過ごす事も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中に和室やソファのコーナーがあり、時には一人で、時には仲間だけで過ごす事ができるようになっている。入居者様同志の距離感も個々に違うので、職員が気を付けて関わりを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた家具や寝具、アルバム等の思い出の品物を持ってきて頂くようにしている。 生活を始めた後に必要な物を思い出す事が多いので、入居後間もなくは、ご家族との連絡を密にしている。	自宅で使っていたイスやタンスを持参しそれぞれに使いやすい部屋にしている。家族の訪問時には掃除や片付け、衣類の入れ替えを行いこれまでの生活を思い出しながら今の生活につなげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっている。 死角があまりなく手すりもついているので、入居者様には自由に過ごしていただいても、目が届きやすく、さりげない見守りに対応できる。 トイレや浴室にも手すりを設置している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ツクイ富山萩原グループホーム
作成日 平成 27年 5月 2日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	ここ2年で少しずつ地域との関係が持てる様になっているが、まだまだ子供や学校との関わりが少ない。今後は自治会の子供会や小学校を中心に働きかけて、交流を持てる機会を作っていきたい。	①近隣の子供達が参加できる行事を考え、自治会に相談する。 ②まずは小学校を訪問し、今後の関係作りの相談を行う。	①自治会の夏祭りの時に、毎年ホーム駐車場で行っている花火を行い、地域の子供さんを招待する ②ベルマークを集める	6ヵ月
2	13	災害時や有事の際の協力体制は万全とは言えない。今後は、ホームの現状を伝えるだけではなく、地域の施設としての役割を発信し、相互に助け合える関係を築きたい。	①水害が予想される地域であるため、水害・地震の時の避難経路と避難場所の確認を行う。 ②消防訓練への近隣住民の参加。	①ハザードマップの共有 ②消防訓練前に、近隣を訪問。	12ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

ツクイ富山萩原グループホーム